

2026年（令和8年）2月5日（木曜日）

地域

山

形

新

冬の「竹あかり」 幸せも届けたい



生徒が竹あかりを作ったワークショップ

山形市・米沢東高

雪灯籠まつりに向け 米沢東高生作る

米沢

米沢市で2月14、15の両日開かれる上杉雪灯籠まつりを前に、「竹あかり」を作るワークショップが1月30日、同市の米沢東高（伊藤由美子校長）で開かれた。雪灯籠と共に火がともされ会場を彩る。1、2年生23人が思い思いに竹を加工し、照明制作を楽しんだ。

竹あかり展示は戦没者の鎮魂や震災の復興祈念として2017年に始まった。

長さ約30センチ切った竹の表面に穴を開け、内部でろうそくをともし照明にする。1年生4人が実行委員会に加わっている縁で、同校でのワークショップを開き、4

人が指導役も務めた。

生徒は電動ドリルの刃を付け替えて竹に異なる大きさの穴を複数開け、雪の結晶や花火のような模様を彫った。完成した竹あかりは早速試験点灯し、仕上がりを確認。2年古山愛唯さん（16）は「難しいと思っ

たけど絵柄が選べて楽しく、良い経験になった。当日も見に行きたい」と話した。

地元の大学生や社会人で組織する実行委は会場の松が岬公園に、同校生の27個を含め計約300個を展示する計画。全て市民がワークショップで手作りし、当日も会場に制作ブースを設ける。実行委の1年漆山袖佳さん（16）は「見てくれた人がみんな幸せになる催しにしたい」と語った。

（菅原武史）